

学術事業報告

学発番号：第13-005]号

研修会名：輸血検査研究班実技講習会

日 時： 2013年6月8日(土) 9:30～17:00

場 所： 京都保健衛生専門学校

主 題1： 輸血中級実技講習会

講 師1： 井上和子(京都桂病院)

参加数： 総数28人(京臨技会員:21人)

報告者： 井上和子(京都桂病院)

以下、講演内容など

平成25年6月8日(土)9:30～17:00、京都保健衛生専門学校において、輸血実技講習会を行った。

今回は、中級の実技講習会として、ある程度の輸血検査経験者を対象としていたが、実際は、赤血球抗体解離試験が初めてである参加者が多く、その点を重視して、各手順の説明に時間を取り、できる限り足並みを揃えて進めるように注意した。

今回のテーマは、「溶血性輸血副作用発生時の輸血検査」とし、輸血後に出血がないに関わらずHbの急激な低下とLD値の上昇など溶血所見が認められる遅発性溶血性副作用の一症例を挙げ、それに関わる様々な検査を行った。

実技項目は以下の通りである。

1. 血液型検査
2. 不規則抗体検査
3. 交差適合試験再検
4. 直接抗グロブリン検査
5. 赤血球抗体解離試験

不規則抗体検査では、抗体の特異性の推測などの不規則抗体スクリーニングの結果解釈、スクリーニング血球における絞り込み(消去法)、量的効果、必要な追加検査(パネル血球など)、フィッシャーの正確確率検定について補足説明を行った。

交差適合試験においては、不規則性抗体スクリーニングと交差適合試験の違いについて、また、直接抗グロブリン検査においては、直接抗グロブリン試験陽性時の対応や、直接抗グロブリン試験陽性の主な原因について講義した。

最後に、総括として、遅発性溶血性輸血副作用の定義・頻度・症状・治療や、溶血性副作用の症状、溶血性副作用の分類や抗体解離法の比較、溶血性輸血副作用が疑われた時の対処について講義を行った。

今年度も、日程の設定など諸事情により実技実習前講義が実施できていなかった。基本事項や理論などの説明が不足していた点は否めず、来年度は講義のみの日程を組むように計画している。実技実習は手技の習得がつい重点的になるが、手技だけでなく、検査技術においては、「なぜこの手技が必要か、この手技の意味は何か」という理論がわかっていて初めて自分の技術と能力になると考える。